

母性看護学

【母性看護学の考え方】

母性看護学は基礎看護学を土台に、成人看護学、老年看護学、小児看護学、精神看護学と共に専門職業人としての知識と技術を高めるための専門分野Ⅱに位置する。

専門分野である母性看護学は、妊産褥婦および新生児への看護活動に加え、次世代の健全育成を目指し、女性の一生を通じた健康の維持・増進・疾病予防を目標とした看護活動を支える実践科学である。

母性看護の対象は、妊産褥婦とその子ども、将来子どもを産み育てる女性、および過去においてその役目をはたした女性のみならず、生涯を通じての性と生殖に健康を守るという観点から、女性と生殖やパートナーとしての男性、子どもを育てる家族、その家族を取り巻く地域社会まで拡大している。

以上の看護の対象の特殊性を踏まえ、講義においては、看護実践をする上で必要な諸理論を「母性看護学概論」で学習し、母性各期と新生児を含めた健康課題や異常状態についての理解を深める「母性看護援助論Ⅰ」とこれらをもとに看護過程を展開する「母性看護援助論Ⅱ」という段階で母性看護学を構成した。

「母性看護学概論」では、母性看護を実践する上で生命を尊び、必要な諸理論「愛着形成・生涯発達理論・役割理論・家族の発達・リプロダクティブヘルス/ライツ・Sexuality・母性看護の生命倫理」を学習する。

母性看護援助論Ⅰの中の「妊婦・産婦・褥婦の正常経過」と「妊婦・産婦・褥婦の異常（健康障害）」では、ヘルスプロモーションの概念を理解し、妊産褥婦をアセスメントするために必要な知識を学習する。また、新生児のアセスメントをするために必要な基本的知識について「新生児の特徴とハイリスク新生児の看護」で学習する。

これらの知識・技術を前提に母性看護援助論Ⅱでは、臨床看護の援助の実際から、妊婦・産婦・褥婦への看護を学習する。母性看護援助論Ⅲ「看護実践の基礎技術」では、褥婦のエンパワメントを促進できる母児の看護過程の演習と母性各期の看護に必要な社会資源について学習する。

母性看護学実習では、母性看護技術の習得とともに、母性看護の対象を幅広くとらえた看護実践の基礎を学ぶために、母児を対象の中心としながらもさらにその家族、社会背景、母児とその家族を擁護する社会制度（行政・地域サービス）まで考えられるようにしていく。

【目的】

母性の看護に必要な基本的な知識・技術・態度を理解し、女性の一生を通じた健康の維持・増進・疾病予防を目標に対象に応じた看護実践を行う基本的能力を養う

【目標】

1. 母性看護の目的と看護師の役割を理解するために、母児の看護に必要な基礎的理論を理解する
2. 母性各期の生殖機能からみた特徴と健康課題を理解する
3. 新生児期の特徴と健康課題を理解する
4. 母児の健康維持・増進に向けて母子及び家族への看護アセスメントと介入方法を理解する
5. 現代社会における母子の健康を支えるためのサポートシステムを理解し、健康教育の実際を学ぶ

【構成及び計画】 〔講義〕

科目		授業科目	単位数 (時間数)	時 期		
				1 年	2 年	3 年
母性看護学 概論			1 (15)	1 (15)		
母性看護 援助論Ⅰ	1	妊婦・産婦・褥婦の正常経過	1 (30)		1 (30)	
	2	妊婦・産婦・褥婦の異常（健康障害）				
	3	新生児の特徴とハイリスク新生児看護				
母性看護 援助論Ⅱ		妊娠分娩産褥期の看護	1 (30)		1 (30)	
母性看護 援助論Ⅲ		看護実践の基礎技術	1 (30)			1 (30)
合 計			4 (105)	1 (15)	2 (60)	1 (30)